

学校ボランティア通信 栗田谷中学校特集

第3号

発行日2006年 9月26日

栗田谷中学校でのATボランティアについて
教職課程担当教授 大西 勝也

内容

- ・栗田谷中学校でのATボランティアについて 大西 勝也
- ・現場の空気 小沼 慶多
- ・学校ボランティアを通して 杉山 貴之
- ・神大生としてATをやっていく事への思い 小松 翔
- ・ATの活動で感じたこと 坪井 望

昨年12月より、栗田谷中学校の先生方のご理解とご協力の下に、神奈川大の教職課程履修学生による栗田谷中学校でのAT(アシスタントティーチャー)のボランティアが始まりました。このボランティアは、学校支援ボランティアの一つです。昨年12月から今年の2~3月頃まで一週間に1回くらいのペースで6名の学生がボランティアに参加しました。栗田谷中学校の先生方のご配慮により、学生は自分の空いている時間帯にボランティアをさせていただきました。

さて、新年度(平成18年度)になり、栗田谷中学校でのATボランティアがこの7月初めから再スタートし、17名の新たな学生が希望し、ボランティアに参加しております。

7月7日にはボランティアの学生(11名)、栗田谷中学校の先生(4名)、そして神奈川大学教職課程担当の教員(3名)が、神奈川大学20号館の教室に集まり、懇談会が開かれました。そこではATボランティアについて活発に意見が交わされ、とても有意義でした。

今回の学校ボランティア通信には、栗田谷中学校でATボランティアをしている学生が、ATボランティアをして得た実感や思いが綴られています。



現場の空気

人間科学部 1年 小沼 慶多



授業のレポートなどで「教育とは・・・」や「良い指導法とは・・・」という問いに対してさも全てを理解しているかのように、「○○である!」と書いていた自分が恥ずかしくなった。私は、現場の空気に押しつぶされそうになり、つくり笑顔をしているのが精一杯だった。

一生懸命な子、反発する子、どうでもいいという子、邪魔をする子と、なかなか授業がスムーズに進まない。孤軍奮闘する先生を見ていて「もし自分だったら・・・」と自分なりにその場その場で考えていたが、結局何の答えも出ないまま、授業チャイムが鳴ってしまった。

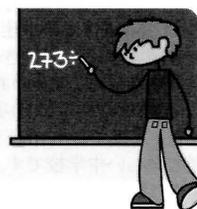
人に何かを教えたり、指導をすることに対して、言葉には常に「責任」がついて回ると私なりに心得ている。教科書には、もっともらしい答えが導き出されており、例えば反発する子どもに対しては、こう言い聞かせるなどといったような対処方法が書かれているが、現場(その瞬間)においては、本当にちっぽけなものでしかなかった。もちろん教養が基礎基本となり、土台になるものだと思うが、そこから自分がどれだけかみ砕いて、応用していくのかということがいかに困難で

あるかということに身染みて感じた。

正直なところ、初日の授業では、恐怖心を感じた。「自分は何ができるだろうか。」「このまま何もすることができないのでは。」とってしまう。

しかし、今回栗田谷中の先生方との懇親会において、「私も悩み、試行錯誤しながらやっています。」という言葉に救われたと同時に、改めて教育というものの難しさを知り、更なる意欲が高まるキッカケともなりました。

9月から本格的にスタートするAT活動に向けて、自分なりに考え、実践していく努力をしていきたいと思いました。



学校ボランティアを通して

英語英文学科 杉山貴之

私は友人の誘いにより、今年の9月から栗田谷中学校のATとしてボランティアをさせていただくことになりました。このボランティアを通して私はたくさんのが学べると思います。

1つは先生方がどのようにいろいろな科目を教えていらっしゃるのかです。新しく出てくる基礎的なことを生徒たちに教えるのは難しいとは思いますが、そのところをどのような方法で生徒たちに教えていただけるのかとても興味があります。

もう1つは将来、先生という立場に立って、どのようにして生徒たちと接していけばいいかです。中学生というのはとても複雑な時期なので、先

生方がどのようにして生徒たちを理解し、触れ合っていられるかを学びたいと思います。ATのボランティアを初めてするので迷惑をおかけするとは思いますが、栗田谷中学校の先生方どうぞよろしくお願いいたします。



神大生として栗田谷中でATをやっていく事に対する思い 法学部1年 小松翔

「大学生は歳が教員と生徒の中間に位置している」と、2006年の7月5日に初めて栗田谷中に行き、ATに関する説明を受けていたときに、教務主任の先生がふとおっしゃったことを今でもまだ覚えています。

僕は今年神大に入ったばかりの法学部1年生ですが、社会の教員免許をとるべく教職課程を履修し、度々教職課程指導室のお世話になっていきます。そこで教職課程の講義の1つである大西先生の教育原論を履修したことで、栗田谷中学校のATを募集していることを知り、ボランティアをさせて頂く機会を得ることができました。AT(アシスタントティーチャー)は、その名の通り学校で先生のアシスタント、つまり補助するのが仕事です。

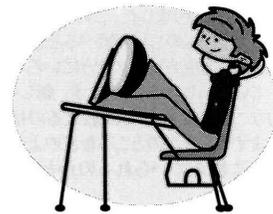
僕がそのATのボランティアをさせて頂くことになった栗田谷中学校は、生徒の非行と呼べるものが滅多になく、校則の文章が10項目しかない上に、社会通念を重視するという公立の中学校の中では先進的で珍しい中学校です。

そして最初に栗田谷中の会議室でお話を伺ったのが、その教務主任の先生です。その先生はボロシャツとスラックスという格好で、スーツを着て恐縮しっぱなしの僕の緊張をほぐしてくれ、特にスーツに拘る必要はない等色々話をしてくれました。その時にATの位置づけとして、教員と生徒との間に立って教員と生徒それぞれのお手伝いをする、決して目立つ訳ではないが、重要な立場にあるということを開き、改めて自分の置かれている立場というものを理解しました。それまでは、いくらティーチャーと名がついて先生のお手伝いをするといっても、たかが大学生ごときにそれほど重要なことをさせてはくれないだろうと思っていましたが、その日を境に、僕自身の覚悟の様なものがより強くなり、微力ながらも教育に携わるものとしての自覚が芽生えた様に思います。

後日、神奈川大学で栗田谷中学校の先生と神奈川大学生との懇談会が開かれました。そしてその時もまた多くのことを学ぶことができたと思います。その中である先生が、栗田谷中学校の先生の

平均年齢は46歳程度だとおっしゃっていました。中学校の生徒の年齢は12~15歳で、大学生の年齢は大抵18~22歳なので、やや年齢が中学生よりですが、両者の間に立てる年齢だという訳です。また、ほかに先生方がおっしゃっていたことでは、ATをやることのメリットとして職員室にいられることや、教室にいさせてもらえることなど、得られる事は、何をしたからできたから良かったという類のものではないということであり、積極的な関わりが求められているのだな、と感じました。それ以外にも「教員というものはマイナスの行動を一度でもとったら(教員を)辞めるという心構えが必要」という教育者になる者として覚悟を試されるような重い言葉を頂きました。

ここで紹介したこと以外にも、以前ATをしていた先輩など色々な方からさまざまなお話を伺うことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。これからもATとして生徒と先生の間で立つと共に、教室での活動や職員室での会話などを通しながら、先生の持つ技術や経験を通じて培った勘などを学んでいきたいと思います。



ATの活動で感じたこと 英語英文学科 坪井 望

ATの活動はまだ1回しかしていないけど、最初に栗田谷中学校に行って感じたことを述べたいと思います。

まず、栗田谷中学校に入って、職員室に行く間にたくさんの生徒さんに会いました。会う生徒さん皆さんが「こんにちは」と挨拶をしてくれて驚いたのと同時にうれしかったです。それに教室や廊下には手作りの新聞や、レポートが貼ってあって懐かしさを感じました。

私は1年3組の英語の授業にお邪魔させていただきました。生徒さんは元気がよくて賑やかだと思いました。でも、盛り上がるけど、ちゃんと「うるさいよ」とか「静かにして」と注意をする人もいて良いクラスだなと思いました。

授業の前に、私と男子学生2人で自己紹介をしました。名前と歳と好きなスポーツの話をしました。何人の人が理解してくれたのかわかりません(笑)。しかし、担当の先生が私の名前がわからなかった時に、1人の男子生徒が「坪井先生だよ。先生覚えてないの?」と言ってくれたときは、本当にうれしかったです。

先生はまず出てきた単語を黒板に書き発音練習をしました。私のときは、ただ単語を発音して意味を言っていただけでしたが、先生は単語のスペルを1つずつ発音していました。こういう教え方もあるのだなと勉強になりました。授業中はそんなに生徒さんとの交流はありませんでしたが、授業が終わった後に「Good-by」と挨拶をしたら生徒さんが「また来てね」とか「また3人で来てね」といつてくれたのでうれしかったです。それに「サインください」とノートとペンを持ってきてくれた子もいて驚きました。また1年3組の授業にお邪魔できたら良いなと感じました。

まだ1回しかATの活動ができていないので、できるだけ長く続けてたくさんの生徒さんと触れ合ったり、交流を深められたら良いなと思います。それに授業にも参加して技術を学べたら良いと思います。まだまだ先生とも仲良くなりたいです。このようなボランティアを紹介して下さった先生に感謝しているし、栗田谷中学校の皆さんにも感謝しています。そして、これからもよろしくお願ひしますと言いたいです。

神奈川大学 教職課程指導室

電話 045(481)5661
FAX 045(413)4154
Email: educ@kanagawa-u.ac.jp

